

pal\*system

四季折々の食の物語を紡ぐ、暮らしの情報カタログ。

# Kimari

[きなり]

お届けカレンダー

2010年 5月1回

	月	火	水	木	金
注文用紙提出	4/26	27	28	29	30
商品のお届け	5/3	4	5	6	7

昭和の日

憲法記念日 みどりの日 こどもの日

別チラシ「くらしと生協」など一部お届け日が異なる商品もあります。

4月26日～5月28日お届け分は6月7日の引き落としになります。

**5月2回のカタログも同時にお届けしています。**

5月2回の注文用紙は、1回といっしょに提出することもできます。

# 世界の水事情。 今、私たちに できること。

640億トン

食品の輸入などで日本人が消費するVWの年間推定総量。

375リットル

日本人1日1人あたりの水消費量。  
2リットルのペットボトル約187本分に相当。

0.01%

地球上の水資源のうち淡水はわずか2.5%。そのうち飲料水など比較的安全ですぐに使える水の割合。

世界の人々の8人に1人は安全な水を飲めないという今、「水戦争」「水ビジネス」、そんな言葉が生まれるほど、世界の水不足は深刻だ。稲作や各地の名水など、豊かな水文化に慣れ親しんできた私たちは、今、水について何を知っていて何を知らないのか？ そして、何ができるのか？

## 戦争は水から始まった。

「ライバル (rival) の語源をご存じですか？ 答えは川 (river)。人類の最初の争いの元は、水。人が水をめぐって対立するのは、昔も、今も変わっていません」

地球上の水資源のうち、97.5%は海水で、淡水は2.5%。しかも、淡水の多くは氷河、氷山、地下水で、飲料水などにすぐ利用できるのは0.01%に過ぎない。そのわずかな水資源が、地球温暖化、世界的な人口爆発でさらに不足。水不足で発展途上国の貧困度は増し、国家間で水の争奪戦が勃発。そして、世界の企業が水の利権を求めて暗躍し、110兆円市場という巨大な水ビジネスを生んだ。吉村さんは、こうした実態への危機感のなさに警告を発する。

「日本の水道普及率は97%以上で、蛇口をひねると、すぐにきれいな水が出てくる。世界に誇るべき水環境です。日本では1日1人あたり平均375リットルの水を消費しています。食料自給率41%への危機意識はあっても『水は豊富で安心安全』と考えている人が多いのでしょう」

しかしゲリラ豪雨の増加、上・下水道施設の

老朽化、人口減少で懸念される水道料金負担の増額など、日本の水を取り巻く現実には厳しい。

## 牛丼1杯作るのに 約2000リットルが必要。

とくに深刻なのが、大量の水を輸入に依存する「バーチャル・ウォーター」(VW)の問題と吉村さん。多くの穀物・畜産物を輸入に頼る日本のために、結果的に膨大な量の水が輸出国で使われている。

たとえば一般的な牛肉の場合、飼料の多くは輸入で、飼料を育てるための水がある。牛丼1杯に換算すると、約2000リットルの水が必要となる。日本の年間VW量は640億トン(家畜のエサも含めると1000億トンになるとの説もある)におよび、世界一の水輸入国となってしまった。

「でも、この国では年間1900万トンもの食べ残しがある。それだけ水を無駄にしている。まず第一にやるべきことは食べ残しを減らすこと。輸入に依存する私たちの食生活が、世界の水不足や食糧危機に直結しているということを知るべきです」

吉村さんは著書『水ビジネス 110兆円水市場の攻防』の最後に、元アメリカ大統領J・F・ケネディの話を紹介している。「世界の水問題を解決した者は、ノーベル化学賞と平和賞を受賞する価値がある」とケネディが語ったエピソードだ。

「日本人は古来、限られた水資源を平和的かつ巧みに分配し、水神様などと水を敬ってきました。海水淡水化の『膜処理技術』など、水技術も世界トップクラスです。私たちは、ケネディの夢を実現できる可能性を持っている。そのためにも、ひとり一人がグローバルな視点で水の問題に真剣に向き合っていかななくては」



## 吉村和就

よしむら・かずなり 1948年生まれ。グローバルウォーター・ジャパン代表。国連テクニカルアドバイザー。千葉工業大学、工学院大学非常勤講師。日本を代表する水環境問題の専門家。 <http://gwaterjapan.com/>

世界で始まった水の争奪戦。  
はたして日本は生き残れるか？

『水ビジネス 110兆円水市場の攻防』

著者：吉村和就

- 出版社：角川書店(角川Oneテーマ21)
- 初版：2009年11月
- 税込価格：740円 ●174ページ



# 6月1回より 『Kinari』が変わります。

その1  
「産直」をいっそう  
充実させます。

パルシステムの基本、産直青果。鮮度向上の取り組みを行い「産直いきいき品質」が登場するなど、いっそう「産直」に力を入れていきます。詳しくは、同時配付の別チラシと、5月2回の裏表紙を併せてご覧ください。

## パルシステム 今週の一品

国産小麦粉使用。  
便利な分包です。



26ページ

101 国産粉ホットケーキミックス

## 同時に お届け しています。



頒布会



ドリンクフェア



2010パルシステム  
100万人の食づくり運動

耕せ!  
日本の食と農

